

## 藻岩山麓にて思うこと

札幌市医師会  
慈啓会病院

東出 俊之

突然、北海道医師会から「会員のひろば」への原稿執筆の依頼が舞い込んできて「なぜ私に」と思いながら、日々思っていることを気ままに書いてみます。

当院は藻岩山登山口に位置し札幌市街地を見下ろすことができます。入局して1年もたたずに当院に派遣され1年半ほど勤務のち留学、いくつかの関連病院での勤務後、再度当院での勤務につき、気が付けば20年の年月が経過しております。この間、時代は昭和から平成、次いで令和となり、師事した病院長も三代にわたり、現在私が病院長を拝命する次第となりました。定点観測のように振り返ってみますと、療養環境は平成に行った病院建て替えで格段に良くなりましたが、医療従事者の労働環境は年々悪くなっているように思えて仕方がありません。患者家族の要求水準の高まり、ムンテラからインフォームドコンセントに変化してからの説明時間の増大、それに伴う書類の増加、診療報酬の改定は人件費の増大に見合わず医療従事者、とりわけ看護師の充足がままならず、せっかく採用にこぎつけても提出された診断書によると、精神に支障をきたして休職となる職員が経験の浅い者のなかで複数でくる状況、また昨今の働き方改革、有給を年5日以上取得の義務化と罰則、時間外労働の抑制等々、頭の痛いことが多すぎる今日この頃です。結局のところ、時間外労働が増えないようにすると、管理者の時間外労働が増えてきているように思います。

毎年1月に医学部2年生が医学概論の実習として、看護師のシャドーイングのために1日当院にきます。40年以上前の私を思い起こすと、医学進学課程2年は教養科目の必須単位をほぼ取得し、クラブ活動や人生勉強に勤しんでいた記憶しかありません。2年までで基礎医学を終了し、3年から臨床医学に入る現在の医学部学生のカリキュラムを見て、将来医師となる学生に一般教養を深め、人生経験を積んでいただきたいものと思っているところです。

新型コロナウイルスによる感染が拡大中の令和2年2月9日、当院は札幌市において休日当番病院となりました。雪まつり期間中でもあり疑いのある方が受診されても対応ができるよう可能な限りの対策を立てておりましたが、杞憂に終わりほっといたしました。この感染症が一日も早く終息することを祈念し駄文を終わらせていただきます。

## 獅子身中の虫

札幌市医師会  
しもかわ内科・循環器内科

下川 淳一

安倍晋三首相の通算在職日数が2019年11月20日で憲政史上最長となりました。自民党総裁としての任期は2021年9月末日までで、任期いっぱいまであと1年半となり、次期総理についての話題が増えてきています。昨年、安倍総理自身が次期総理候補として、岸田文雄政調会長、茂木敏充外相、菅義偉官房長官、加藤勝信厚労相の順に名前を挙げました。この4人が現時点での有力候補と言われており、私自身は第二次安倍政権誕生時より菅氏が次期総理の適任者であろうと期待していました。ところが、どうやらその線はかなり薄まったように思います。昨年12月、とあるネット番組でジャーナリストの門田隆将氏が「実は菅官房長官が二階幹事長の手下として、水面下で改憲を妨害してきた」という趣旨の指摘をしました。これには大きな衝撃を受けたのですが、過去の菅氏の言動を思い返すと、今となってはなるほどと頷けることが多々あります。訪日外国人旅行者を増やすインバウンド政策や、昨年4月に成立したいわゆる「アイヌ新法」を牽引してきたのは間違いなく菅氏であり、穿った見方ではありますが、日本の国益をもたらすように見えつつも、実は他国に利する政策を進めてきたという疑惑がぬぐえないように思えます。同時期より、記者会見での菅氏の発言に突然キレがなくなり、言葉に詰まることが多くなったのも事実であり、これは、安倍総理が菅氏を目論見に気づき、三行半をつきつけたということの影響と考えると辻褄が合うように思えます。岸田氏にはこの乱世で世界と渡り合っていく胆力が足りているとは思えず、加藤氏は今回の武漢ウイルス初期対応から決断力の甘さが見えてしまいました。消去法で茂木氏が第一候補となるのでしょうか。野党は一昨年のモリカケと同様、武漢ウイルスの驚異が迫ってからも桜を見る会の追求一辺倒であり、何も期待できません。安倍総理退任後の日本を考えると、どうしても明るい気分になれず、悶々とした日々を過ごしています。世間では武漢ウイルスの話題一色で、日々刻々と感染が拡大している中、この号が発刊される頃には収束に向かっていることを心より願います。